歩行者、運転者ともに守るべき交通ルール。大切なものを守るために…

私たちが守るべきもの

道路は、歩行者や自転車、自動車などが安全に通行する、最も基本的な交通施設。私たちは、道路を使ってさまざまな場所に移動するなど、道路は生活にはなくてはならない必要不可欠なものです。そして、道路を使う上で大切な「交通安全」。市内では交通事故による死者が増えています。安心して道路を使うためには、歩行者や運転する人など、全ての人が交通ルールを守り、思いやりを持って行動することが大切です。

問い合わせ　防災課　河原崎　☎㉓0056

気の緩みや油断が事故に

市内では、今年1月から10月までの間に300件の交通事故（人身事故）が発生。それにより、5人の方が亡くなり、390人の方がけがを負っています。市内の交通事故は近年、減少傾向にありましたが、昨年から増加し、今年の現時点での死者は、23年の0人、24年の2人を大幅に超えています。これらの事故のほとんどは、運転者の前方不注意や確認不足によるもので、ほんの少しの気の緩みや油断が重大な事故につながっています。

思いやりの心が大切

警察や行政では、信号機の設置のほか交通安全施設の整備や、交通安全の呼び掛けなどの対策を進めていますが、それだけで事故をなくすことはできません。

歩行者、運転者ともに、交通ルールを守ることはもちろんですが、お互いに譲り合うなど他人のことを思いやり、行動することが重要です。

事故のない安全安心なまちをつくるためには、一人一人の力が不可欠です。

■進めよう「ピカッと作戦！」

早めのライト点灯

秋から年末にかけて、夕暮れ時の事故が増加します。歩行者や他の車などに自車の存在を知らせるためにも、早めにライトを点灯するように心掛けましょう。

午後4時にはライト点灯

自発光式反射材の着用

夕暮れ時や夜間の交通事故を防ぐには、明るく光る、「自発光式反射材」の着用が効果的です。夜間外出する時は、車から見えるように自分を明るく目立たせましょう。

自発光式反射材で事故防止

「みんなが主役」交通安全

交通安全は誰かがやってくれるものではありません。一人一人がしっかりと、それぞれの役割を果たすことが大切です。そう、交通安全の主役は「あなた」。歩行者や運転者、子どもや大人など、さまざまな立場の人に、交通安全に対する思いを聞きました。

子どもは予測がつかない動きをするので、小さい子を持つ親としては心配です。一緒に道路を歩くときは、必ず子どもの手を引いています。私たち運転者が心と時間に余裕を持ち、思いやりと譲り合いの気持ちで運転することが大切ですね。

思いやりと譲り合いの気持ちを

3人の子を持つ主婦
松浦恵梨（まつうらえり）さん　虹心（にこ）ちゃん　（坂部）

ヘルメットをかぶらずに自転車で転んで危ない目に遭ったことがあるので、遊びに行くときはヘルメットを被っています。

信号無視をしている運転手を見ると、「危ないな」と思います。将来、自分の子どもに交通安全の大切さを教えたいです。

遊びに行くときにはヘルメット着用

牧之原小6年
三浦伊織（みうらいおり）さん　（牧之原）

交通事故は他人事ではない

市交通指導員会会長
太田茂夫（おおたしげお）さん　（大江）

交通指導を始めて45年、多くの悲惨な事故を見てきました。私たちは、「これ以上事故の犠牲者を出したくない」という思いで日々、街頭に立っています。事故は他人事ではありません。道路を使う全ての方に交通安全の実践をお願いします。

地域全体で子どもたちを見守る

軒先ボランティア
栗林伸介（くりばやしのぶよし）さん　（地頭方）

「私の前では絶対に事故を起こさせない」という気持ちで11年間、登下校時に子どもたちを見守っています。「じぃじ」と声を掛けてもらうなど、子どもたちから元気をもらっています。地域全体の子どもとして、これからも見守っていきます。

■交通安全運動に参加しよう

榛南一市一町住民安全大会

日時　12月21日㊏
午後1時～3時30分
会場　い～ら
内容　▶表彰▶交通安全ミニ講座▶ nozomiガール「NEed」ステージ▶県警音楽隊演奏など

昨年の大会での県警音楽隊の演奏

年末の交通安全県民運動

期間　12月15日㊐～12月31日㊋
運動の重点　▶高齢者と子どもの事故防止▶夕暮れ時から夜間の交通事故防止▶飲酒運転の根絶▶自転車マナーの向上など

昨年の運動での街頭広報